

一、俳句の約束事

(一) 五・七・五で作る 縦書きで間を空けない。句の太字は季語です。

上五 中七 下五

○○○○○音 ○○○○○○音 ○○○○○○音

古池や 蛙飛び込む 水の音 は× 古池や蛙飛び込む水の音 が○

(二) 音の数へ方 俳句は十七文字ではなく十七音でまとめる。

「きや きゆ きよ」「しや しゆ しょ」「ちや ちゆ ちよ」は一音

救急車(音) 修了証書(音)

小さい「つ」は、これで一音 俳句では小さい「つ、や、ゆ、よ」は大文字で書く。

カタカナの小さい「ッ」も一音であるが、「ッ」と大きくは書かない。

ねつちり(四音) ミックスジュース(七音)

カレンダールの「ー」は一音で数へる。

(三) 季語を一つだけ入れる

(四) 切字(俳句独特の手法)を入れる場合

代表的な切れ字に ○○○○や ○○○かな ○○○けり

「や」と「かな」と「けり」を併用しない。

三月や森羅万象息吹けり ×

風花や生れきてふわりふわりかな ×

目には青葉山ほととぎす初鯉 この句は有名な句であるが、季語が三つ(季重なり)

切れが三つ(三段切れ)ある。ブツブツと三段切れにしない

二、実作の心得

(一) 調べよく作る。口に出して詠んでみる。

(二) 何度も推敲してみる。季語に対してこの句がふさわしいかどうか。第三者の眼で句

を見直す。芭蕉の推敲過程

初案 山寺や岩にしみつく蟬の声

再案 さびしさや岩にしみ込む蟬の声

決定 閑さや岩にしみ入る蟬の声

(三) 喜怒哀楽を詠まない。感想を述べない。

(四) 動画、映像化することを念頭におく。

(五) 報告や説明の句を作らない。

山村も都会となりて避暑地かな 報告の句

通勤の楽になりけり夏休み 説明の句

(六) つきすぎないこと。(関連が強すぎること)。(離れすぎないこと)。(季語と遊離)

東風吹かば梅の匂ひや道真思

鶯の鳴き声寂し山の道

(七) 旧かなづかいで作る。字面が良くなり感觸も良く、より俳句らしくなる。

膝に猫抱きゐて母の日向ぼこ

とりどりの色を変へきて山眠る

春場所や鬘肩の力士けふも負け

社会鍋賑はひ失せし柳ヶ瀬に

一周忌母の居さふな掘炬燵

三、俳句のパターン例 (切れ字を用いて)

〇〇して〇〇〇〇となりけり

合格に希望の朝となりけり

季語 下五を修飾 体言止め (名詞)

◎◎◎◎や〇〇〇〇〇〇●●●●

爽かや手漕ぎ舟ゆく水の郷

◎◎◎◎と△△△△△△の●●●●かな

糟糠の妻とふたりの良夜かな